

## 目まぐるしく変化する現代社会

2020年に大学入試制度の大改革がはじまり、日本の教育は大きく変わっていきます。

【今までの評価は】…学んだことをきちんと理解しているかなどの『知識・技術』が主の評価となっていた教育でした。

【これからの評価は】…『知識・技術』を習得するだけでなく、さらに自分で考え、分析し、伝えられることが求められていきます。

なぜなら、AIの進化で、現在存在する仕事の多くが減っていき、グローバル化で外国人との協議が増加するなど、これまで経験したことのない新しい社会＝VUCAの時代が訪れるからです。

VUCAとは、動的で複雑、不確実で曖昧という意味を表す言葉です。

『Volatility (変動)、Uncertainty (不確実)、Complexity (複雑)、Ambiguity (曖昧)』の頭文字をつなぎ合わせて出来ています。VUCAの時代とは、わかりやすい言葉で言うと「競争の激しい時代、安定のない時代」であり、その中で求められていくものは、変化する時代に対応できる資質と能力です。

社会福祉法人清香会の法人理念は「新しい保育の創造」。そして園理念は「無限の可能性を信じ共に育ち合う個と公の集団」です。この理念にあるように、今の時代にあった保育を想像し創造すること…未来を見据えて、時代に合わせた“保育”を子ども達に向けて発信していくことが大切だと思います。

先日、年に一度の合同研修が行われました。(法人の職員が集まる研修です)  
統括園長から、法人の目指す“保育”を全職員で意思統一し、永年勤続や皆勤賞のお祝いもしました。例年であれば、講師を招き座学で学んでいましたが、今回は変えてみました。まさに「新しい保育の創造」の実践で、メインは『フェス』ということで各園がブースを運営します。担当者は、交代制でブース運営に徹し、それ以外の職員は、他園のブースを回ります。実はこの案が出た時は戸惑い迷いました。しかし“変化する時代に対応できる職員を育成している清香会”です。「出来るわけがない」という答えを出すのではなく、「どうすれば出来るのか?」「保育現場で活かせるものはないか?」など、考え尽くしました。

横浜りとるぱんぶきんずのブースは、今年のテーマでもある「わ」～和・伝承遊び～です。あやとりやおはじき、コマ回しに、めんこと浴衣の着付けなど、職員が積極的に運営しました。今回の取り組みをしてみて、「いつもやっていたので今年も…」という考え方は、時代遅れなのかもしれない、ということに気づきました。

Why (なぜ?) を追求し、How (どのように) を考えることが、より必要です。何が正しくて何が正しくないという判断だけでは対応できない(曖昧な)時代だからです。

子どもとの関りの中でも、すぐに答えを教えるのではなく、子どもに「問いかけてみる」。大人が経験したことが正解とは限らないからです。これからは大人が考えもしなかった、新しい答えを子ども達から引き出していく…それこそが、この時代に必要になってくるのではないのでしょうか。(橋本)

